黒埼町の今昔

第37回　文・絵　宮田栄門

明治29年の大水害

横田切れ

古くから西蒲原は洪水に見舞われてきたが、なかでも「横田切れ」といわれる一七五七年（宝暦七年）と一八九六年（明治二十九年）の大水害は今でも古老の間では語り継がれている。

このほど、明治二十九年の横田切れの惨状を記録した文書が発見された。黒鳥五番組の鷲尾忠資さんの祖々父幸吉さん（当時四十七歳）が記したものである。一農民によって書かれた貴重な体験記である。㊟ 横田…今の分水町。

見出しには「明治二十九年三十年両悪年」とある。以下この二年間の被害状況が書かれてある。文書の中には、七月二十二日早朝に横田を破堤させた水が刻々と黒鳥の郷地に迫りくるさま、水を防ごうと必死で堤防を固め防禦につとめた村人の姿がうかがえる。

ついに部落内に入った水は次第に増水し二階板上一尺五寸に達っし、高地にある倉も床上一尺九寸を越えた。そのため俵物や衣類のほとんどが水びたしになり、居所さえなくなった。しかたなく俵物を船に積みこみ、船の中で蚊に食われながら三晩も夜を明かし、二十五日にはついに年寄り子供は内野町の親戚にあつらえ、まさに死の苦しみであったとある。

その後八月末に仮水戸留ができたが、九月十日の雨で再び破堤、九月末にはその水戸留が終わる。しかし、降り続く雨のため十月十三日三度目の破堤となった。

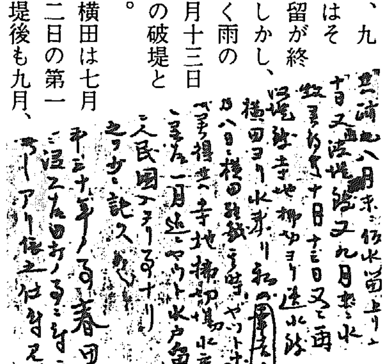
㊟ 横田は七月二十二日の第一回破堤後も九月、十月と破堤をくり返しそのたびに下流に大被害を与えた。約一万八千ヘクタールの水田が泥海となったといわれる。

翌三十年春、田植えの時期となったが、水害後もずっと水に浸った田は荒れ果てており、田打ちのできない所が多かった。

やむなくそのまま植えたが稲のでき方は、打った田も打たなかった田も「カハリハナシ」と記されている。

三十年も雨が多く、今度は高山村が破堤した。押し寄せた水は黒鳥の部落をのみこみ高畑の上を二尺八寸も越えたと記され、そば麦を少し植えたが、連日の雨で「ドクナソバニナラズ（良いそばができなかった）」とも記されている。

そして水害後、今度はせっかく実った稲に大量の油虫がつき、その対策が村役場で協議されたこと。



このほど発見された
鷲尾忠資さん宅の古文書

油虫退治のため黒鳥部落で七石の魚油を買い、それを百三軒に割当て散布したこと。

この魚油を「石油ノムラ」という名で記されているのがおもしろい。

合計七石余の油で足りず後は銘々買いをしてたくさん買った者ほど「大勝利デアッタ」と記されている。

翌三十一年には苗代に害虫が発生した。そのため、苗の三、四寸より植終えるまで、誘蛾灯の代わりに魚油をもやして虫を追ったこと。

田の草取りとも二番草を終わり、三番草のころからまた害虫が多くなり、道端、原油などの雑草を刈りとり害虫駆除をした。

そして、全部の田に魚油をまき、丘ケ田（高い田？）には三、四回から五回も油をまいたが、虫には三十年のように油をまくのが第一と記されている。

今月から「黒埼町の今昔」を再開します。私事ですが、本年四月から黒埼町の町史編さん室の室長をまかされることになりました。

この連載でその研究成果を公表していきたいと思います。今まで以上に皆さんの御理解御協力をよろしくお願いします。

短歌

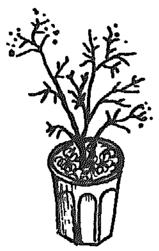
短歌会

ブラジルより帰り来る子を気ずかいて一日何も手につかぬなり　宮田　ミイ
雨上がりの清しき庭の木の雫朝日を浴びて光りつつ落つ　金内　セツ
観音の画像鋳像経像をばおがみ本読み真理を念ず　柏　直樹地
無花果の葉の広がりて朝明けの窓際暗く灯を点じ書く　酒井　庄平
誰が為に鳴らせし鐘か昼時に五月田渡り響き来たれり　阿部　淨子
降り続く梅雨に華やぐ庭苔に今朝はせきれい一羽餌食む　泉井　ヨ子
朝露に濡れて開きし夏椿勤めを終えて帰れば散りおり　小出美喜子

満天の星空川面にうつりいて手もて掬えり其きらめきを　宇　女
緑陰に憩えし幹の肌ざわは想いかき立つ祖母の手のひら　可　津

俳句

祖母生みし地に住みつきて夏祭り　可津
オレンジの月夕顔と雅を競う　宇女
野仏の膝にすがれる蟬の殻　佐藤キン



街かど

投稿を待っています

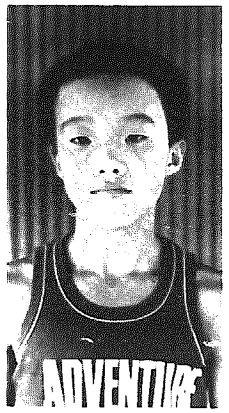
図書館だより

7月末日現在登録者数1,682人
9月夜間開館日（夜8時まで）
12(水)、19(水)、26(水)
9月休館日　3(月)　5.6.7.8
9.10（本の整理のため）15(土)
17(月)、20(木)、24(月)、25(火)

私・の・好・き・な・本

大野小

佐藤信一郎



化石のひみつ

ぼくは、この本を読んで、初めてわかったことは、バクテリアという化石が三十億年も前のものだったということだ。

また、アンモナイトは、きょうりゅう時代にすごく栄えたものだ。アンモナイトはまだたくさんあるだろうと思う。

もう一つは、一九六三年にドイツのドムブロウスキーという博士が、六億年以上も前のバクテリアをしょうどくしたら、バクテリアが生きかえって、ふえはじめたということを知った。

ぼくも化石ほりがしたいなあと思った。イチョウやサイは生きている化石だということがわかった。こんど動物園に行ったら、サイを見てこようと思います。

新刊案内

（7／20～8／11）

午後おそい客（日本エッセイストクラブ編）零戦燃ゆ（柳田邦男）雷神翔ぶ（丸山健二）木工のABC（浅見匡他）古志恩草（桐生源一）ツルはなぜ一本足で眠るのか（ぐるーぷ・ぱあめ）日本よ農業国家たれ（叶芳和）日本の人口・日本の社会（人口問題審議会編）核戦争を救った男（南里征典）日本人の動物観（中村禎里）経済人類学の現在（フランソワ・プイヨン編）山野草入門（中山草司）地球から宇宙へ（小口高）日本の政党。刑法㊤（藤木英雄）決定の政治経済学（曽根泰教）暮らしに生きる念仏（亀井鑛）貿易日本の活路（田中拓男編他）原初の太陽神と固有暦（吉村貞司）九人組のがき大将（清水達也）ひげよさらば上中下（上野瞭）医療保障の危機（石本忠義他）人間と社会の現象学（R・C・クワント）核廃絶の力学（K・コーツ）幻の繁栄新産都市二十年の決算（北日本新聞社）幻の繁栄差別と選別教育の二十年（北日本新聞社）花ホテル（平岩弓枝）蚊（椎名誠）夫婦記（十返千鶴子）核戦争3分前（池上重朗編）貿易摩擦（大山昊人）えほんのもくろく（児童図書館研究会編）犬たちと殺人と（佐野洋）こうすみのおくりもの（宮川ひろ）14ひきのやまいも（岩村和朗）風の戯れ（酒井美意子）夏の海の色（辻邦生）村上朝日堂（村上春樹他）三条越後の伝統刃物（土田邦彦）越後の伝統織物（土田邦彦）国家試験資格試験全書1984、小夜子の魅力学（山口小夜子）堤義明という男の読み方（永川幸樹）らくらくソーイング1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15（文化出版局編）悪魔の手先（レス・ローガン）黒魔術の復讐（ローリー・ブリッジズ他）悪魔にとりつかれた少女（ローリー・ブリッジズ）人形の呪い（レックススパージャー）地獄への片道切符（レックス・スパージャー）銀行（自由化への戦略）（高月昭年他）高度情報社会（日経産業新聞編）続高度情報社会（日経産業新聞編）ザ・デイX（市岡陽一郎）雨季の終り（辻邦生）近代日本の文明学（梅棹忠夫・石毛直道編）日本の古典名著総解説、大草原に潮騒が聴える（桐島洋子）文芸年鑑1984（日本文芸家協会）マリー・キュリー（フランソワーズ・ジルー）サーカス物語（ミヒャエル・エンデ）夢の科学（三輪和雄）クラウゼイッツの暗号文（広瀬隆）ねえ、おきて！（さとうわきこ）ほねがつよいこじょうぶなこ！（杉浦保夫）ズッコケ財宝調査隊（那須正幹）ズッコケ心霊学入門（那須正幹）とびだせバカラッ千隊（吉本直志郎）右むけ左！（吉本直志郎）五年二組の探偵団（浜野卓也）ほえろ！チビ（溝井英雄）たけしくん・ハイ！（北野武）わが罪はつねにわが前にあり（松橋忠光）訃報は午後二時に届く（夏樹静子）火の魔法陣㊤㊦（斉藤栄）払い戻した恋人（赤川次郎）出雲伝説⅞の殺人（島田荘司）昆虫かんさつ入門㊦（くらたみのる）紙ねん土おもしろ工作（高氏雅昭）人冠婚葬祭殺人事件（赤川次郎）人間の空㊤㊦（福本和也）愛情物語（赤川次郎）雨の倉敷殺人事件（志茂田景樹）ダイヤモンドの兄弟（清水一行）そして夢色の殺人（笹沢左保）新・翔んでる警視（胡桃沢耕史）忘れられた花嫁（赤川次郎）地獄の狩人（勝目梓）偽証法廷（和久峻三）愛しき者へ㊤㊦（中野重治）川上喜八郎（刊行委員会編集）昭和維新試論（橋川文三）八雲が殺した（赤江瀑）捨てない教育（高橋信一）夏・風・ライダー（高千穂遥）コーナーの向こう側（山川健一）続徳川家臣団（綱淵謙錠）真夜中の匂い（山田太一）愛のごとく㊤㊦（渡辺淳一）毎日ニュース事典1973年度から1980年度まで（毎日新聞社調査部編集）明治ニュース事典第一巻から4巻まで（明治ニュース事典編集委員会編集）関ケ原の戦い（旺文社編）ちんまい分校（木戸征治）日本と米ソの軍事力（講談社編）良寛の生涯とその歌（大坪草二郎）人の噂も五七五（山藤章二）趣味とレジャー（小学館）徹と由紀子（ジェムス三木）不動産表示登記入門第三版（金融財政事情研究会編）世界歴史地図、くらしの行政相談、民力1982年版1983年版（朝日新聞社編）別冊民力新、県別キャラクター（朝日新聞社編）いたずら子リス（椋鳩十）うまい話にご用心（木村晋介）懐かしき友へ（井上淳）約束された明日（広瀬仁紀）白い血が流れる（藤本義一）妖戯者（菊村到）自由と自立への歩み（佐藤洋子）現代の小さな神々（朝日新聞社）あなたの症状は（高瀬経和他）イチバン（小林孝雄）愛してよろしいですか？（田辺聖子）ひとすじの闇に（夏樹静子）生きざま（柴田錬三郎）空の魔法陣上・下（斉藤栄）下町演芸なきわらい（加太こうじ他）つかれた人上・下（井上光晴）二十歳の設計（源氏鶏太）秘められた心中（夏樹静子）悪を駆ける男（和久峻三）この世の外から何処へでも（一条龍輔）歴史の群像2黒幕（鎌仏道）自決（飯尾憲士）日本経済の現状1984年版（現代日本経済研究会編集）まなざしの心理学（福井康之）黄金蝿（市川亀久弥）これからの協同組合と教育活動（坂野百合勝）ナショナル・トラスト（木原啓吉）認知と言語（E・ホーレンシュタイン）一〇〇てんかあさん一年生、カレーとうさん二年生、パパのおでかけ竹蔵三年生、ママへのアンケート四年生（以上日本児童文学者協会編）星になったチロ（藤井旭）ルルちゃんボールぽん、ルルちゃんはおかあさん、ルルちゃんゆらゆらごっちん、ココとクンクンのほしのくにたんけん、ココとクンクンのふしぎなはなのくに、ココとクンクンのどかーんはなびチックチャクチャムのまあるいものなあに、チックチャクチャムのおはなつみ、チックチャクチャムのおやまをぴよ～ん（以上学研）京の夕立ち（水上勉）幸福の距離（落合恵子）あべこべ人間（遠藤周作）水の魔法陣㊤㊦（斉藤栄）ころぶはおへた（三木卓）ボディランゲージを読む（野村雅一他）ハクチョウ（本田清おしいれのぼうけん（古田足日人魚とぼくの夏の話（香川茂）わにさんどきっはいちゃさん（五味太郎）大きくてもちっちゃいかばのこカバオ（森山京）キャンプ入門（小菅知三）こうかん日記で魔法をかけて（末吉暁子）びんのむこうはあおいうみ（加藤多一）おかあさんの耳、日曜（東君平）まってました転校生（布勢博一）

◎連載⑦

マイウェイ

夜の公民館長？

大坂正男

おおさかまさお　大正2年生大野七区。昭和49年12月から黒埼町（中央）公民館の管理を続けている。

知らない人はまったく知らないが、知っている人はよく知っている。というのが大坂さんである。特に中央公民館をよく使う人には大坂さんの人柄が知れわたっている。「厳しい」のである。

「もう十年ぐらいだな。教育委員会から頼まれた。最初はただの泊まり番ぐらいの仕事だった。去年から宿泊はなくなったけど」

大坂さんは「おっかない」と思われてるんじゃないですか、とおそるおそる聞いてみた。

「そんなことない。だけど、あんたがやるようになってからやりにくくなったと言われたけど、それは今までいかに自分たちがでたらめに使っていたかということなのだ㊕」

大坂さんは筋が通らないことは大嫌いである。マナーを守らない人には厳重に注意する。

「なんだそれぐらいと思う人もいるだろうけど、でも公民館は公共のためだからね」

といっても、規則一点張りの人ではない。傘などの忘れ物はいつまでも保管していてくれるし、不意の雨のときは、古い傘から貸してもくれるのだ。

「明治生まれだから、もう怖いものもないね。だからおかしいと思うことは町長だろうが教育長だろうが言うしね。夜の公民館長と人が言うよ㊕」

戸籍は大正だが、届け出が遅れたそうである。

「この公民館も長いことはないから、俺とどっちが先になくなるかねえ㊕。」

最後に聞いてみた。十年間のこの仕事で何かおもしろいことありましたか。

「おもしろいことなんて何あるって。おもしろいということは任務を放棄したことだ」という返事である。